

初めての全国大会を 楽しんで走りたい

大衡 真基 君

おおひらまきき 遠野中三年 松崎町



スピードとスタミナの両方が要求され、位置取りなど激しい勝負が繰り広げられることから『走る格闘技』とも呼ばれている陸上競技八百員。この種目で今年、県内主要三大大会を制した遠野中の大衡真基君。十月に横浜市の日産スタジアムで開かれるジュニアオリンピックへの出場が決まった。

「初めての全国大会。自分より速い選手が集まり、今までで一番大きな競技場で走れる。楽しんで走ってきたい」と目を輝かせる。七月の県中総体では2分3秒65で制したものの、全国大会出場標準記録(2分2秒00)にわずかに届かず悔しい思いをした。それだけに、今大会の出場はうれしさもひとしお。

競技歴はわずか三年。小学一年からスイミングクラブに通っていた大衡君は、「中学入学後も水泳を続ける予定」だったが、入学と同時に水泳部が廃部に。汐々陸上部へ入部した。それでも、仲間と練習し、競い合う楽しさは陸上も同じだった。

昨年の秋からは、県の強化合宿に参加する機会に恵まれ、ライバル選手との練習は大きな刺激になった。また、週末には花巻市に出掛け、大学生らと共に高いレベルで練習する機会も得た。

持ち味は百メートルを11秒台で駆け抜けるスピード。東北大会の予選でマークした自己ベスト、2分01秒57は全国でも十分入賞を狙える記録だ。「残り百メートルの勝負では負ける気がしない。残り二百メートルでトップに離されないスタミナを付けて、ベスト3に入ることが目標」と話す大衡君。

岩手の期待を担う若きランナーの挑戦は、まだ始まったばかりだ。

特集

遠野から世界へ

いまだに景気の回復を実感できない地域経済。そんな中、遠野の地に活路を見いだし成長を目指す企業がある。不況に負けず、新たな景気の波を作り出そうと独自の戦略を展開する企業の取り組みを紹介する。

